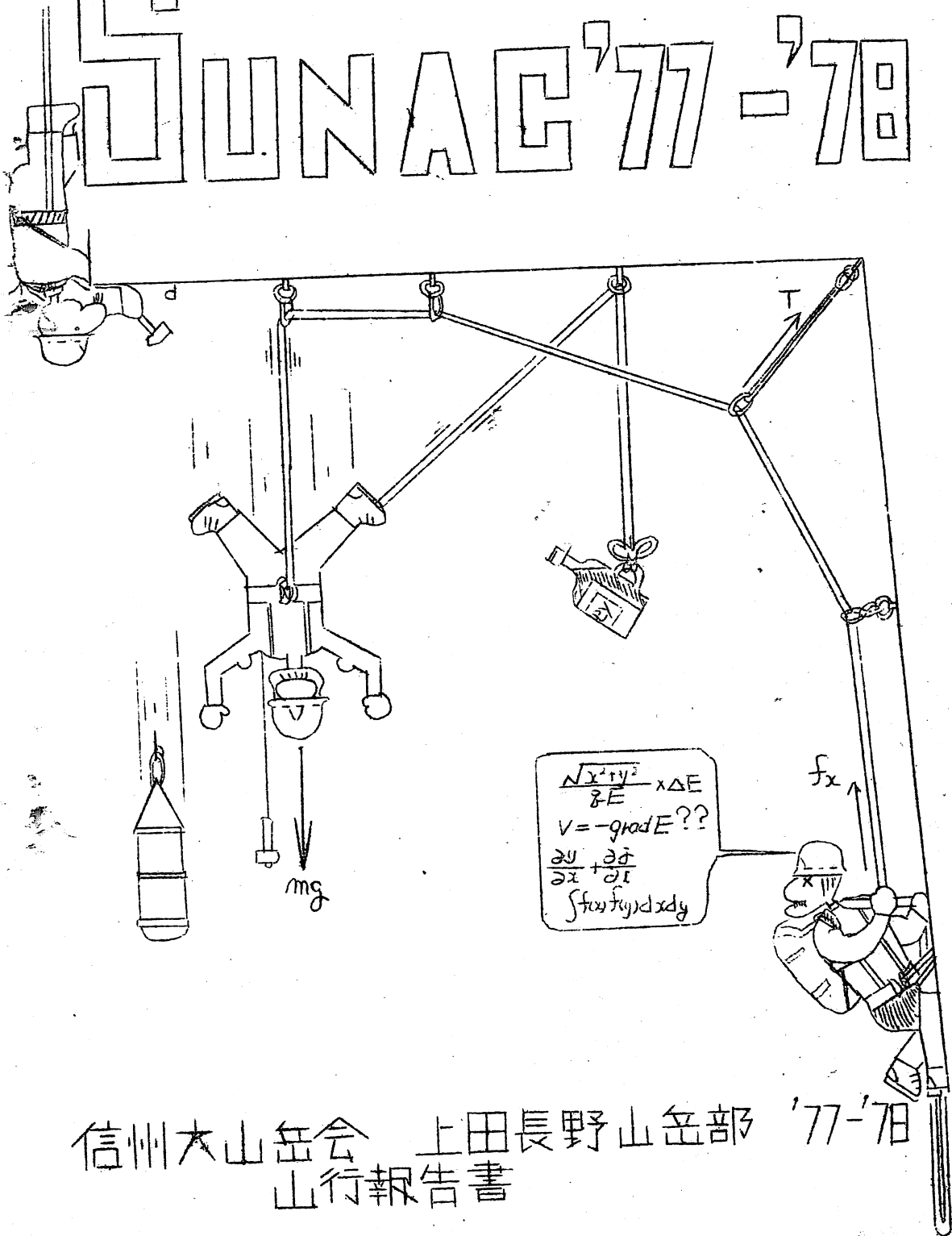


QUNAG '77-'78



信州大山岳会 上田長野山岳部 '77-'78
山行報告書

— 目次 —

77 丸山 東壁 縁ルート 登攀
中央アルプス 縦走
明星岳 岩登り
錫杖岳 岩登り
奥秩父 縦走
唐沢岳 幕岩 岩登り

78 黄蓮谷 右俣 登攀
中央アルプス 宝剣岳 岩登り
唐沢岳 幕岩 岩登り
戸隠PI 稜 登攀
屏風岩 ~ 北穂
鳳凰三山 甲斐駒 縦走
中央アルプス 縦走
槍 ~ 山 沢 縦走

丸山 東壁 ミドリル - ト 19330 ~ 50

先バー 丸山本巻 中嶋岳志

1日目 ◎ 大所から黒田ダムを經へ入る。内蔵野谷出口にツルトをける。

2日目 ① BS - ミドリル - 取付 - 終3段 - 丸山 - BS

登山道よりエルゼをつめ、途中から草の中のザレをついて、正倉壁の下へ、弓型凹角より20m程右が取付である。中嶋トップで登り始める。

1P目 スラダ状のフェースを細かくフリーとAOで登り、以後ツルベで登る。

2P目 フェースをフリーと混じえたAIで小テラスまで、30m

3P目 アブミのかけがえで三口目ハンゲをこえてハンゲ上のボルトテラスまで35m、

4P目 アブミのかけがえでボルトテラスまで40m、

5P目 アブミのかけがえ20mからな上するバンドをフリーで登り、さらに凹角を人工で登ると傾斜が落ちる。こゝよりカンテを登るのだが、中嶋がつり落ち、10m位下へもどり自分でザイルをつかんでとまる。すぐに凹角下まで登り、トップ交代 25m

6P目 凹角からゆるいカンテを登り、中央バンドへ25m

先行パーティーがろつほどありゆっくり休む。

7P目 中央バンドを30mほど左へトラバースした所より取付く、垂直のフェースの人工登攀30m

8P目 フェースから、ハンゲを左へ回りこむようにしてこえ、フェースを人工で登ってブッシュの中のテラスへ40m、

9P目 ブッシュのほりからフェースを人工で截止、大きな木でビレー

10P目 ブッシュの中の岩をフリーと人工で登り、ブッシュの中のテラスへ35m

ここで登攀終了

が、正かきもつて、山へ登り、地面を下し、洞へ下り、洞の奥の奥
中で暗くなる。

3日目 ① BS—谷—下山

先日のつがれで、左岩筋へ行くのがいやになり下ルする。

※ 動物の様子

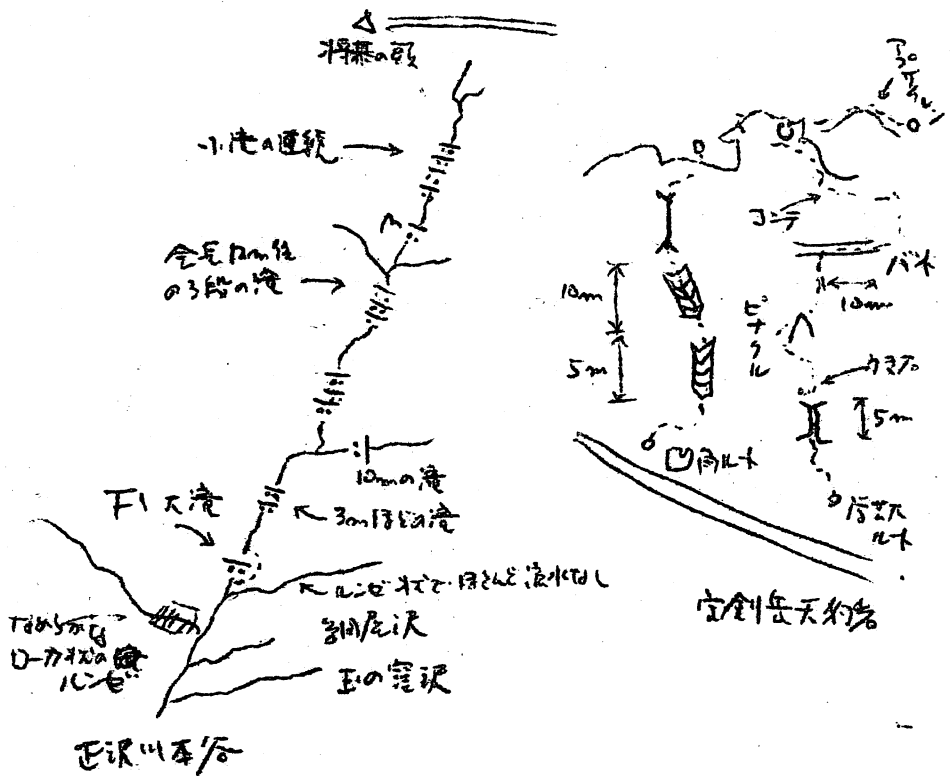
取付より5F目、30mほどザイルがのびた所で中央バンドまで降り、オン
テ様の岩場が続いている所に出たので、つりついで空易に登ろうとして、い
きなりスリップ。せいぜい3m後下のボルトにランニングシューズを取ってあ
ったのと、それまでルートが斜上していたため、ザイルにははかばか
と登ることができ、10m位落ちただけでどこにもぶつからずに止まる。すぐにボル
トまで登り、山本代に登ってもらい、登攀をつづけることができた。首が
クタクミズバレになったのみで外傷はなく、精神的にも大きなダメージは
なかったが、自分の吃驚さと、力不足を強く反省した。

再び早稲田の田舎が広がっていた。植林帯には10と20mの感じ、中央アルプス
 のXとYの山がある。南アルプスもいい。南部へくるとあまり人はおもしろくない。
 穂高木道のピークにつく。2300の付近は曇り、花崗岩が白化して少し砂状
 に見える。穂高木公園までくると木が不揃いになる。ほとんど太平洋岸という
 感じに変わった。

アザミ岳のピークに達するまで道が下りばかりでなく上りも多かった。地図で確認
 して木道側へ下る。これは食糧の肉俵と昨日からある積雪層とでできた
 積雪に出たのが7:08。ここから家へ来たか24時間ほどにわたる工事の飯場に
 とまるとした。

1/6 ① Fd

朝出で(さうして)下りから登山が上がり、23時。8時頃の下山のせいで
 らうことに(さうして)24時間をつぶした。登山が下り、交渉のせいで
 2時。中央西線野原駅まで。



7-2の下のテラスを切る。

4PM. 左から1回回しこみスラッグを7-2の下までいき7-2の
バントから44=-。44=-をぬけるとセブシカいあり。
ザシカから35mほどぬけたらハートと打つてセ-

5PM 寺野1.5m程左にセシ-点をうつしてもし、II級程度の
かし場とせると終る。

== 30分程度から1時間45分。

左のフッシュ帯へつ-み、岩場を登るとP6のた。P6からは左岩壁
に中央バントの道を通りそこからフッシュ帯にたれんせへ
はいすたいように気を配りながら西面を下りて造水塔まで
おりました。142mほどがブの丸。寺野はそうこし終り1502
下り(2回)。

(おわり)

〈鍋杖岳の岩登り〉 1ルンゼ, 3ルンゼ, F3 宇治俊登

10月18日 ~ 10月21日

メンバー 中嶋 岳志 (Leader)

吉野 敏昭

山田 弓子

日本晴れの天気が続くなか、紅葉した杉林からつき出ている
奇岩岳の岩登りを十分に楽しんだ山行でした。

10月18日 ① お金の無い我々は、上高地でバスを下りて、新中尾峠
への道をひたすら歩いた。鍋杖へ行くのには、どうして
もこさはばならない峠だ。午前中は上高地に沈黙して
いる冷気のため、鳥はたが立つほどであったが峠を下
るころには、ひたひたにあせをにじませて、ドタバタと歩
いていた。 とうにか、こうにかしてついた 鍋杖沢の
岩小屋は ボルダートにも使える快道所だ。すくなくには
水が流れている。

10月19日 ② しっかりと冷え込み、朝方はよく振られなかった、
たき火をして体をあたためながら食事を取り出発。
岩小屋から北沢をつめ45分ほどで、大きな滝の下へつ
きアインゲイルソ、オーダーは 中嶋—吉野—山田。

1P 階段状フェースを右上 30mでテラス

2P やや左上, ルンゼに入り 25mほど登りバンドへ そこ
から右上10mで かん木帯

3P かん木帯をはいずりまわり 40mのぼす

4P ふみあとを左上, 大きなフェースの下にでる 傾斜が
ゆるく, どこでも登れそうだが、残置ハーケンが全く
ないので ちがっしエ帯との コンタクトラインを

登！ ナクル またがってビレー

5P フェースを、ほぼ登って ブッシュ帯へ 40m まで終

全体的にやさしく、きあは適 我々が 登ったのは 左ルート
すが、いが 日本の岩場のルート図とだいぶちがうようだ。(中嶋)

P2でザイルをほどき 中央縁を登る P2~P1のコルまでは空場 P1
はふみあとをたどって左から、かろうじように登る、かなりいやらしいブッシュ
混りのフェースで、ザイルを出そうかと思った、P1から先は 緩く広くなり
草原を歩き、右保沢の下降点から ふみあとをたどって本峰 フェース直下へ
トラーパス。ここで我々は本峰 正面フェースを登る予定であったが 取付が
わからず、ビルディングフェースを登る 幅200mはあろうか いうようなのっぺり
広がるフェースの右側に テライン付所をうろうろして 材料をつまみしてしまい
結局、ビルディングフェース直下を左へトラーパスし P3, P4のコルへたどり
てから頂上を往復し、このときルートがわかった、取付はビルディング
フェースの ほとんどを登り終である、P3 P2... は一ヶ所いやらしい岩の出ている
所があり、そこでにはほどザイルを使った、あとは ふみあとをたどるとは
頂上は岩がポコポコと出ている気持ちのよい所だ、人知れなくなく一段路はない
ので、きれいな、頂上で40分くらいの人びりたあとに30 下降開始、登る
ときにザイルを出したところは南側がうまくことができた、P4の下りで20m
ほどずり下り、ルしてP5のコルにてる。このコルは壁が一面には入ってい
てない、ここから牧中へ 下る、この決は何も問題に ところは右にカシ 派
(細い)だ、コルより45 ほどで岩川岸につき、3:00

2019 ○ とうもろこし、またしてもにむしに餌食となる。出発するころ
がうねりは赤く燃え出す。今日は、本山行のメインルート、木
の丸のピタ登だ。北江まつり前部フェースが、せまったところ
で、その下を石へ石へと下ってのく、みこしたところから再びは、バンド
に入ってしまった。木の丸のピタ登の2Pを省略すること
で、残念！ としかく、そこでアングァイレシ、オーグー
中島—吉野—山田。

- 1P スラブを40mいっぱい登る。
- 2P 同じくスラブを40m。
- 3P リッジ状の岩を左からまわりこみ、小さいフェースを登ると
大テラスにでる。40m
- 4P ここで正しいルートをはずれ、右の谷すじにトラバサして入り、それ
にそって登っていくと15mほどでリーケン産物の左側垂壁にぶつり
そこから人工で造上してテラスへ。40m IVAI
- 5P リッジ状より快直存スラブの登攀へと続き、右側に4m=一歩の所がある
土のテラスまで40m
- 6P. さらに上へと登るが、ゴツゴツが非常に多い10mくらい登ったところで
右へ斜くバンドへ入り、40mのはず。
- 7P. 10mほどいよいよひとこぼ(岩ぶもるい)があるので、ギールを使ひ。ここで
終了。5時間くらいかかった。

かと思ひしたのち5P3を通り、岩の隙子岩の南側をまわ、ふみあをみる。鳥帽子
岩基部の岩小片にはテラスがあり、めばしいものをいただ人、空は雲一もない。
岩小屋の口陰に入って昼食をとる。今日の下降路は石俣沢だ、ずっと鳥帽子岩
から、ふみあが流れている。石俣沢はギールを出す必要のある所は全くない。
ただ牧中沢との出合付近で少しばかりあせる所がある、水は全く流れていない
ので登山靴で十分だ。

21日 ○ またまた分母もたまふとて出発。あいのわらうが来前は快晴、
取付までは一ルンセ取付からさうに前側フェースを下る、岩がごご
ごごと押出している、一目でルンセとわかるところが取付だ、
アソガイレにするところから太湯が、壁のあまりのけつてくる
ひたさった空気が、岩がじょじょにあたたまっている。

1P 小滝を登りがけで、30m

2P 滝の左側よりカシラを登る、30m

3P 左のスラブを登ると残置ハーケンのおる小レッジへ 40m

4P レッジよりルンセ内へ入り込み、チヨウクストンの穴を登り
ぬけてたところでビレイ

5P 少しがし場を登り、ハーケン、ボルトの跡打されている 左側側
の壁を登り、滝の落ちへと出る、40m

6P 滝の左側のとろい岩を登って着口へ、20m

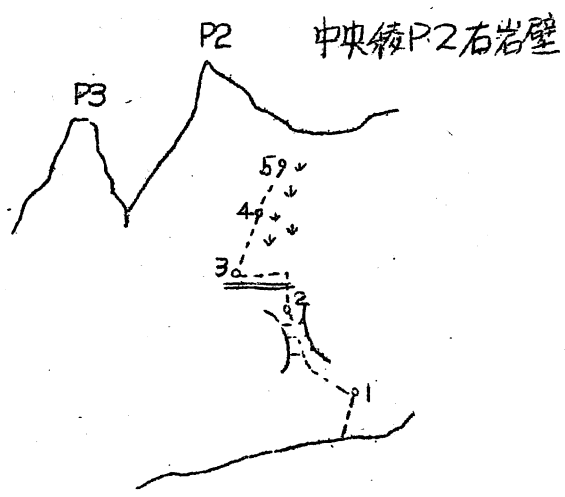
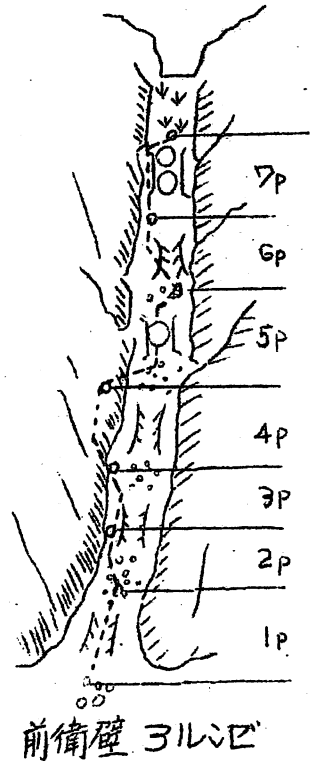
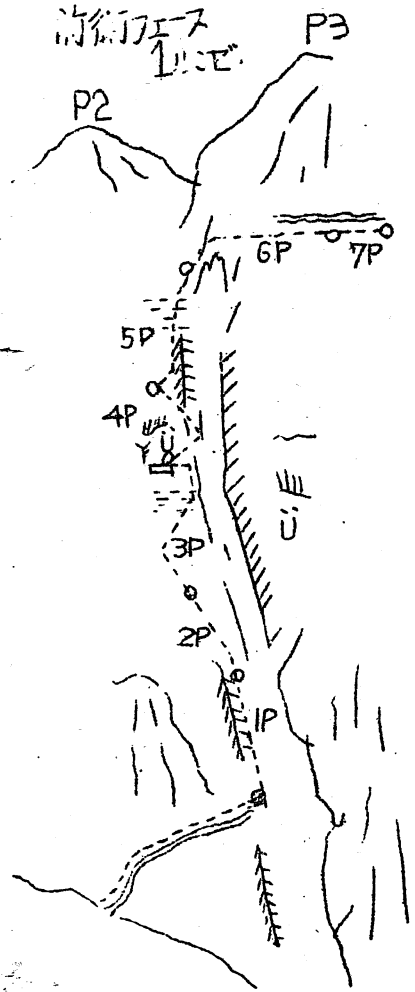
7P 取付ゴロム（さうと山岳隊のたろい岩岩を布ト）で登る

オーター 中島—山田—吉野

ここから上方に見えるゴルめざして 草付まじりの階段状の岩場を登る。
ゴルからは東北フェースの面する谷へと下る（途中20mほどアソガイレ）
がし沢にすくヒ入り、それづたいに下るとクリヤ谷へ30分ほどで着く、
ここから、昨日前夜々のB.C.であった岩小屋へまじり 荷物をまとめ
中尾峰をスラ上高地への長い下山を開始する、5Pで上高地へ。

※ 岩が高原圧による快晴がつつく中、秋の岩登りを十分満喫する
ことができました。釣射は、奥又や滝谷にくうべるとはるかに
静かです。岩がしっかりしており、決してひけをとるものではない
でしょう。またいっか級に行きたいものです。

林. 錫杖岳, 1,3ルンゼ, 中央峰P2右岩壁ルート図



＜興徒父縦走＞

10月27日・10月30日

メンバー 箕田 俊 (L)

竹ノ内 多良

- 行先 1 = 信濃川上 (10:25) - 梓山 (11:10) - 十文字峠 (15:00)
- 2 T.S - 三宝山 (8:15) - 甲武信岳 (11:15) - 大日小屋 (6:30)
- 3 T.S - 倉崎山 (7:25) - 大日小屋 (11:45) - 伐採小屋 (11:45)
- 4 T.S - 瑞穂山 (8:05) - 川上村

10月27日 ○ 信濃川上 - 梓山 - 十文字峠

信濃川上 10:25, 梓山のバス停11:11 いよいよ千曲川の源頭に到達。踏み出す。下から見る山々は、すでに紅葉たけなわ、紅というより黄が強い。カラ松林をつづうけりに登っていく、落葉がさくさく。川はほとんどかきれている。川上村の畑がやけに広くみえる。十文字峠には3:05 ころ到着、ここでテントを張る。水場は信州側に5分下る

10月28日 @ → ☉ ガス

十文字峠 - 三宝山 - 甲武信岳 - 大日小屋

十文字峠を8:15出発 2000m ちよつとの高度で樹林帯がいたす。続く、箕田さんと別れて行く、のんびりとあたりの景色をながめながら歩く、三宝山パークにつくと、急にあたりがガスにだされてきた。かなり平坦な道が目立つ。みるさの山々のおいしさをしっけりと味わった。11:15 甲武信岳につく「南側がかなり紅葉している」というが、ガス場になっている。箕田さんと離れて行動するが、長い間で冷々気がなくなってきた。あたりはだんだん暗くなってきた。足が滑ったのはまずかった。下り坂で、ちよつとしたはずみで足を滑らせてしまった。

大弐小屋はもうすこした、がんばろうなっ、ちや、やっとの思いで小屋に着く。

10月29日 ① 大弐小屋—金峰山—大日小屋—代孫小屋

昨日の悪天とはうってかわっての好天気、雲海がとてもきれいである。海の方は富士山、南アルプスやハケ岳、遠く浅間山も望める、ここは360°展望の金峰山のピークである、非常に壮快、箕田さんのキックで、フルーリッカンを開ける、スケールの大きい大日岩、といつてもひよいと登れる。アップシューズでフリクションが利く、大日小屋から大ヤブこきをする。川にそったところに代孫小屋がある。あれはてくいたが、黄金の御殿

10月30日 ① T.S—瑞檜山—川上村

8:05出発、瑞檜山に向う、ピークには面白そうな岩がたくさんあるが、夏道をひよこ、ひよこ登った、富士山の西側にくると、雲が階段状にかがっている、「天国への階段」といった感じ、金峰山が、とても高く見える。日曜日ということもあり、女性たくさんいた、老夫婦がいっしょようけんめい登っていくのには感激した。10:10、ピークを出発、川上村に向う、瑞檜山のスカイラインが とても勇壮 箕田さんは、リッ峰みただ、といつていた。地図どうりの道がない。冒険して強引に山をこえて 村にでる、駅までヒッチハイクする。



唐沢岳幕岩大凹角ルート

10月9日～10日

メンバー 山本章 中嶋岳志

1日目 ① 松本—大町—葛温泉—唐沢—B沢のBS
松本から大町まで国鉄で、さらにくず温泉までバスで行き、ダム工事の車を横目で見ながら、2時間で唐沢出合につく。沢の中にキャタピラのあとがつづいている。沢どうしに行くとき左に巻き道が作ってあるので、それを登り、また沢に毛どる。しばらくすると25m位の全時の大滝に行き手をふさがれる。この滝は左岸のガリーを登り小さな尾根をのりこして高巻く、しばらく平凡な谷を行くとワシロの大滝が左から落ちてくる。ここで本流とわがれ滝を登ってB沢にはいる。B沢を50mも登ると小さなガレが右からはいてくる。ここまで温泉から3時間である。軽テントをばり、幕岩を偵察し大凹角ルートの取付をかくにんしてテントに毛どる。

3日目 ① BS—大凹角ルート登攀—右後下降—BS—下山
7:00 11:40 14:00

BSのむきのガレを登り、踏み跡にみちびかれて取付まで行く、ボルトのある小テラスより山本トップで登りはじめる。

1P目 傾斜のゆるいフェースを15mで半畳テラスまで、以後ツルベで登る。

2P目 スラッグ状のフェースを人工とフリーで登り凹角を左へ出てからゆる

いスラッグを右よして30mでボルトテラスへ

3P目 ゆるいスラッグを適当に20mで洞穴テラスへ

4P目 洞穴左のフェースより洞穴上の凹角を斜めによこぎって、人工で

フェースを右よし。ゴヨゴヨの草付にすがって小ハング下のボルトテラスへ

5P目 小ハングを右からがらみフェースのトラバースから人工でゆるいス

ラッグ状フェースを左よする。ボルトが遠く苦勞する。傾斜の強い草付滝を

登って大きな凹角の下へ40m。

6P目 大きな四角を登り、ガボったフェースをハトラバースしてから、
 拳付フェースとガジュを直上し、大テラスへ25m.

ここで行動食をたべて、しばらく休む、大分まで登り、た気がしていたが、
 系付からここまで3時間である。

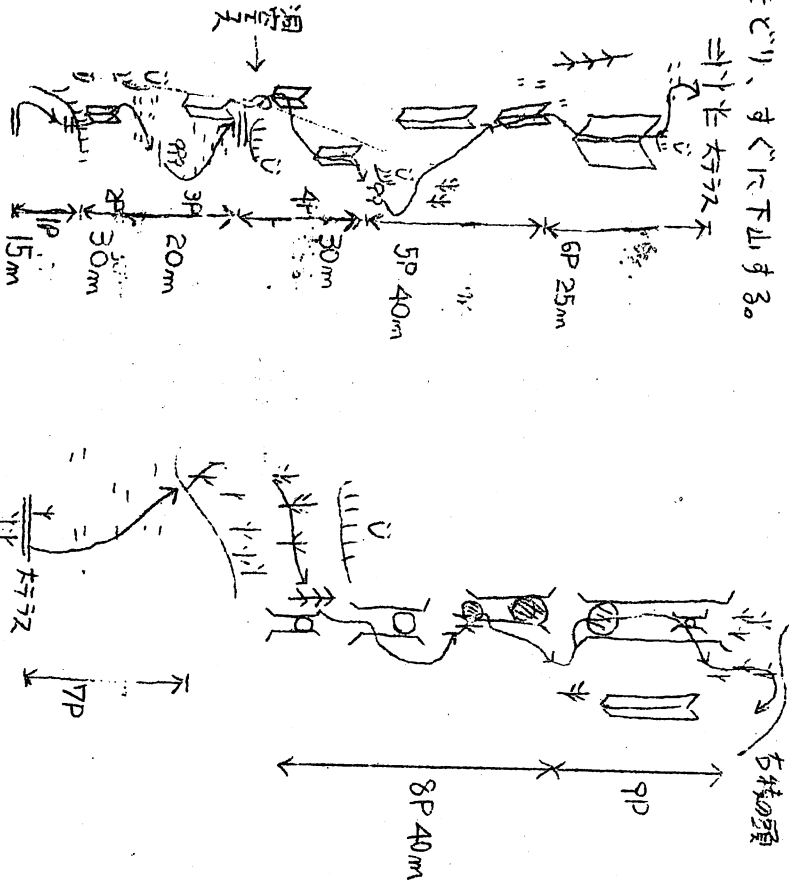
7P目 容易な第2スラバを左上して中央バンドのガジュ帯へ40m

中央バンドのガジュの中を大四角ルート上部の大クムニー下までゴコテ、
 各P目 クムニーの右壁よりクムニーの外へ出てモウのフェースを左上し

クムニー内へ入り、右壁を人工で登り、またクムニーの外へ出る。
 さらにクムニー内へトラバースしてもゼリ40m(1)のハカはす。

9P目 クムニー内のガレから右壁を登りガジュを直上して右側の頭へ出て
 終了。ここまで登攀のクムニーは4時間半である。

あつくり休んで右壁を下降する。右壁は上部で30m、中間で60m、下部で
 40mのフ、ザザインをして、右側のムルマツク、ガレを下り、テラニク
 にもゼリ、すぐには下山する。



唐沢岳幕岩大凹角ルート

10月9日～10日

メンバー 山本章 中嶋岳志

1日目 ① 松本—大町—葛温泉—唐沢—B沢のBS
松本から大町まで国鉄で、さらにくず温泉までバスで行き、ダム工事の車を横目で見ながら、2時間で唐沢出合につく。沢の中にキタビラのあとがつづいている。沢どうしに行くとき左に巻き道が作ってあるので、それを登り、また沢にモじる。しばらくすると25m位の金時の大滝に行き手をふさがれる。この滝は左岸のガリーを登り小さな尾根をのりこして高着く。しばらく平凡な谷を行くとワシロの大滝が左から落ちてくる。ここで本流とわかれ滝を登ってB沢にはいる。B沢を50mも登ると小さなガレが右からはいてくる。ここまで温泉からの時間である。軽テントをばり、幕岩を偵察し大凹角ルートの取付をかくにんしてテントにもどる。

3日目 ① BS—大凹角ルート登攀—右稜下降—BS—下山
7:00 11:40 14:00

BSのむきのガレを登り、踏み跡にみちびかれて取付まで行く、ボルトのある小テラスより山本トップで登りはじめる。

1P目、傾斜のゆるいフェースを15mで半畳テラスまで、以後ツルベで登る。

2P目 スラッグ状のフェースを人工とフリーで登り凹角を左へ出てからゆる

いスラッグを右よして30mでボルトテラスへ

3P目 ゆるいスラッグを適当に20mで洞穴テラスへ

4P目 洞穴左のフェースより洞穴上の凹角を斜めによこぎって、人工で

フェースを右よし。ブヨブヨの草付にすがって小ハング下のボルトテラスへ

5P目 小ハングを右からがらみフェースのトラバースから人工でゆるいス

ラッグ状フェースを左よする。ボルトが遠く苦労する。傾斜の強い草付滝を

登って大きな凹角の下へ40m。

6P目 大きな凹角を登り、かぶったフェースを左へトラバースしてから、

草付フェースとブッシュと直上し、大テラスへ25m。

ここで行動食をたべて、しばらく休む、大分てまどった気がしていたが、取付からここまで3時間である。

7P目 容易な第2スラブを左上して中央バンドのブッシュ帯へ40m

中央バンドのブッシュの中を大凹角ルート上部の大クムニー下までコンテ、

8P目 クムニーの右壁よりクムニーの外へ出てもういフェースを左上し

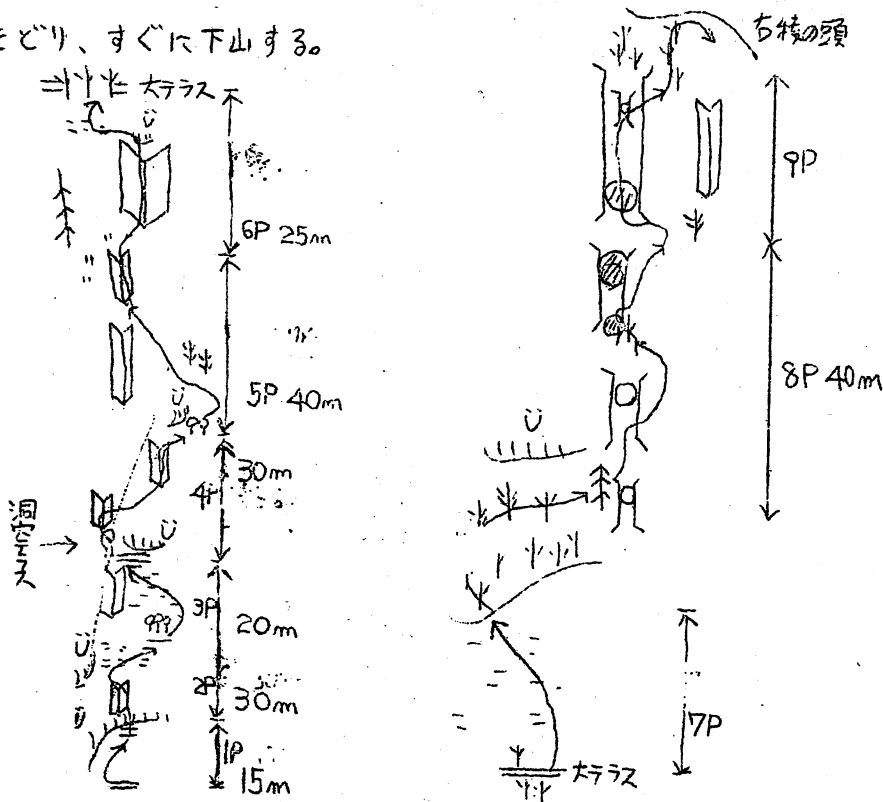
クムニー内へ入り、右壁を人工で登り、またクムニーの外へ出る。

さらにクムニー内へトラバースしてもどり40m(い)はりのはず。

9P目 クムニー内のガレから右壁を登りブッシュと直上して右稜の頭へ出て

終了。ここまで登攀タイムは4時間ほどである。

ゆっくり休んで右稜を下降する。右稜は上部で30m、中間で60m、下部で40mのアップザイレンをして、右稜のユルへつく、ガレを下ってテントにもどり、すぐに下山する。



〈黄蓮谷右俣〉

S53 2月3日～2月5日

メンバー 中嶋 岳志ム 内山博彦(A-III)

1日目 ◎→⊗ 竹宇駒ヶ岳神社— 黒戸尾根5合目 16:10

全国的に強い寒波にみまわれ、日本春側からの雪雲は甲斐駒をもちつみ富士山は長い雪煙をなびかせ、風の強さをしめしている。松本発511分の列車に乗れなかった我々は、日・春でバスをのがしてしまい、ゆっくりと朝食をすましてから、タクシーで竹宇の駒ヶ岳神社に向う。登山者カードを記入し、神社の裏から、登山道を登りはしめる。雪はワリをぬうす程度である。しかし、2P,3Pと登るにつれて雪は深くなり黒戸山に近づくとヒザまでのラッセルとなる。5合目についた時にはまだ岩小屋まで下れる時間だったが風雪が強くなってきたので2ヶある荒れた小屋の1ヶに泊ることにする。夜中になって、すさまじい風がふき、寒く少しも眠れない、長い夜だった。

2日目 ◎ 5合目6:45—黄蓮谷出合 8:10— 真の二俣13:40

5時すぎに起き出し、ゆっくりと朝食をとってからアイゼンをつけて出発する。小屋の裏から道にそってラッセルしてゆくと、すぐに道はわかるようになる。氷の塊に下ってゆく、みどと氷が氷の上に現われ、適当に巻く。氷はすべてナメたが、アイゼンがささうないほど固いので、つかつに近づけない。もう少しで黄蓮谷というところで、中嶋がアイゼンをなくし、あたりしで太さわぎでさがし回り、やっとみつけて谷におり立つ。谷は雪でうまれ、所々氷までのラッセルがある。すぐに地主の境があらわれる。この境は3段目になっていて急傾斜なのは、下の2段3mほどである。下から一段目は中央を二段目は左よりをピオレトラフションでぬける。ハーケンタビレ-用に3本打つ、とぎすましをピッケルがさかないほど氷がめたく、しかもちろいで氷をつかた。3段目はワリハコに登る。コンテでラッセルし8mほどのゆ

るい氷瀑を登ると、すぐに二保である、二保の上の10mの滝は同時トハんで
登り、さらに時々ヒザまでのラッセルがある谷を息をきうして登ると右に30
mくらいの垂直の氷瀑がおろている、それを登らなければならぬのがと思い
あせるが、実際に登るのは、その滝を、かすめるように左上へ15mほどである
こゝより100mほど 雪壁がつづき 奥千丈の滝だと思われる。一時向ほど腰
までのラッセルで、イコベルの下へ、さらに15mほどのゆるい氷瀑をこえ
一時向ほどと隣の二保につく、右のガケの基部に岩小屋があり、ちょっと整地
してビバークサイトとする、時間はまだ早かったが ラッセルで2人とも完
全にバテて先に進む気をなくしてしまった、まだ明るいうちがウリエルトを
かぶって来たのだが、色々とまずいことがあって、座ったままのしせいで、
一睡きできぬまま朝をむかえることになるのである。

3日目 ⑨→⑩→⑪ B.P.7:15 - 山頂 9:35 - 北沢峠 13:30 - 戸台 16:45

眼れぬままに朝になる、シユラフの中でウツが氷っている、明るくなるのを
まってウリエルトがう出る、カスで視界が若干悪く、風で雪が巻き上げられて
いる、昨夜のビバークで意気消沈し、すぐ上に見える3段60mほどの滝のト
ハンをあきらめようと決める、下から一段目は、右の沢の10mの氷を登って
巻き2段目の下へ出る、行動を始めると、夕方の荒天が気にならなくなって
しまい、色気を出してこの滝を登ることにする、片山トップで取付き、30m
でぬける川カハはビシ一本だけ、傾斜は60°強だが氷が固くむすかいらった、3段目は
下でみたよりはがかり小さく登りやすくなりすぐに巻いた、これより上は滝はあのような
で雪崩をさけるための緩へ、腰から胸までのラッセルで緩へ出てウリエルトを登って
川と黒戸尾根へ出る、もう山頂は残った記念写真をとりすぐ北沢峠への道を下る
風が強くて体がたむけたまふルトをさがしなから下る、片山の頂はたまたま真白である、(1)
天の目かかがスバル切れ始め大きくルートをはすれるとたなく駒津岳へ双月山を
北沢峠へつくころには快晴となり峠からはトースもあがり早く戸台に入った。

<中央アルプス宝剣岳岩登り>

2月25-26日

中嶋 岳志(山), 山本 章, 片山 博彦, 吉野敏昭

1日目 ⊗ 伊那—~~根~~根—しろび平—千畳敷

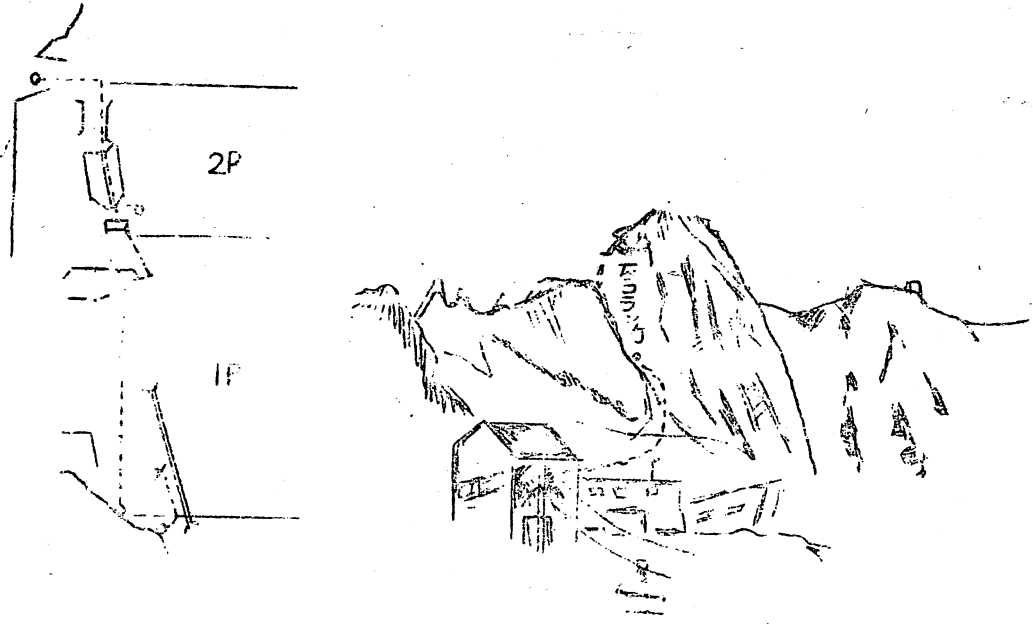
朝弱にも我々は千畳敷へとケーブルカーで上った。当初の計画では、極楽平をBルートとして3日間の登攀活動を行なうはずであったが、~~計画~~ ^{予定}をたててケーブルカーが 運休とのことで明日には下山しなければならぬこととなった。荷物を宝剣山荘のべランダ(といっても完全に雪にうまっており、小屋と自由に入出入りができる)におき、さっそく雪がまう外へとでていく。湖界はど口といってもよく、けんとうをつけて宝剣の方へと向う。突然自然に岩場が表われ、視界がきかず、どこのかさっぱりわからないので、とにかくこの小さな岩場で練習をすることにす。しかしなかなか手ごわく、うすれていく寺の感覚をとりもとそうと手をはたきつけながら、苦労して登る。3時間ほどできりあげ山荘へくとる。夕食は食事で、予備をみながらという楽しいものでした。

2日目 ○ 山荘—宝剣岳東面左フランケ—山荘—しろび平—伊那

きのうと違ってがわっての快晴。しかし今日下山のためそうゆっくりきいてはいられない。腰までのラッセルをしながらIPで宝剣岳中央線の直下まで、なお、(きのうの昼—場所は宝剣の左下にある岩場だ、た) (う) 時間のつどうよりルートを左フランケに定む。ところが右フランケの取付までいくのもなかなか長い。た、雪崩をきけて右にある雪線の上のところを登ろうとしたが、下り岩がぬてきたりして、ザイルをぬめいっげい使う。それを空りきると取付だ。取付はぬめいっげい岩の大スラゲで垂直。ホルト線片のこ。うとペグがうたれ直上する。う。うはリスがある。た。た後着点とりのたが、不安定なのでやめてボルトルートにする。オ—タ—。中嶋, 片山, 山本, 吉野

1P ホルト連打のややがみりぎみの入ラブを30m登り、スラブのきれたところで右にまわりこみ、雪のついた特徴のある岩場を登り、時置ハーケンのある小レッジにつく、40m

2P レッジより左上する凹角を登り4m直下につく。ここを人工で、ぬけそうなりーゲンにおののき登ろうと、左にトラバースするく狭走路と出る。終了したのは登攀開始して5:30分後、ただちに極寒平の方へ100mほどのきできとうな氷をみつけ一気に千畳敷までニリロード、有人と15分、あとは氷が来るときつけたトレースをたどり山頂へ、



今回の山行は以後のきつぎを行われる冬期にウーゴールクライム...
 がゲームの練習として行われたものである、(もしなげなわの日はきびしいもので、ずっとたいて確保することがいかにスライムと分も悪い知らされた、まじ快晴の中でした、アイゼンをつけての人工登攀がつかれる有まわがりました、宝剣は冬期にウーゴールクライムのための最高の本格的な入場券として保存してしようか、

積雪期唐沢岳幕岩大凹角ルート 3月2日～5日

メンバー L山本章、片山博彦、中嶋岳志

1日目 ○ 松本^{6:53}—大町—高瀬館—唐沢—大町の宿^{14:30}

松本から大町、葛温泉をへて入山する。唐沢にはいるとラッセルがあり時間とくう。金時の大滝も問題なく巻き、右稜の下部にある岩小屋＝大町の宿につくがすでに14時を回り、本日ここまでとする。

2日目 ⊙→⊗→⊕→⊙ 大町の宿^{6:50}—大凹角ルート取付^{7:35}—中央バシ^{18:00}

大町の宿から右稜を登り、右稜のゴルからトラバースして夏の取付より少し高いあたりから、登攀開始^{7:35}。オーダーは片山—山本—中嶋

1P目 凹角とスラブを35mで夏の2ピッチ目のボルトテラスへ35m、15mほど登った所で等身大の雪がくずれ、片山はあやういめに会う。ボルトテラスに片山、山本が集結しラストはユマールで登る。かなりの重荷をもちてもユマールのおかげでホイホイだ!

2P目 トップ山本にがわり、氷のついたスラブを右上し、ブリッジにビレーをやり、振りぎみに洞穴テラスまで。トップの山本は悲鳴を上げてトラバースしてかく。ラストはユマールで直上する。

3P目 トップ片山で洞穴テラス峰より人工で右上する。片山はかなりのスピードで登ったように感じたが、実際は時間はどんどんすぎている。片山によると、草付からボルトテラスへラフあたりで落ちてアイスハンマーにぶら下ったのだそうである。ラストはまたもやユマールで登るが、ルネが斜止しているため振られてあせる。

4P目 トップ山本、セカンド中嶋に替わり片山が荷上げそうけもつ。小ハンゲを素手になって登り、氷のついたフェースのトラバースからピンの間かくの遠い人工。さらに氷化した草付滝を登り。その上の大きな凹角をさけて左のリッジを登りブリッジでビレー45m、ギヤルが足りず11mmφをすぎた。このピッチ4本トップは2時間半を飛ばす。ルートが斜止しているために、

ラストも苦勞して登ってくる。

5P目、トップ中嶋に上がり、氷のフェースをピオレトラクションで直上し、

テラスへ25m。

6P目、ひきつづいて中嶋トップで氷化した第2スラブをピオレトラクションで直上し、中央バンドにつつまむ。40m。

全員集結して同時トハンで上部壁の基部まで登り、"はれきかみらずに座て"ビバークする。気温が高く良く眠れた。

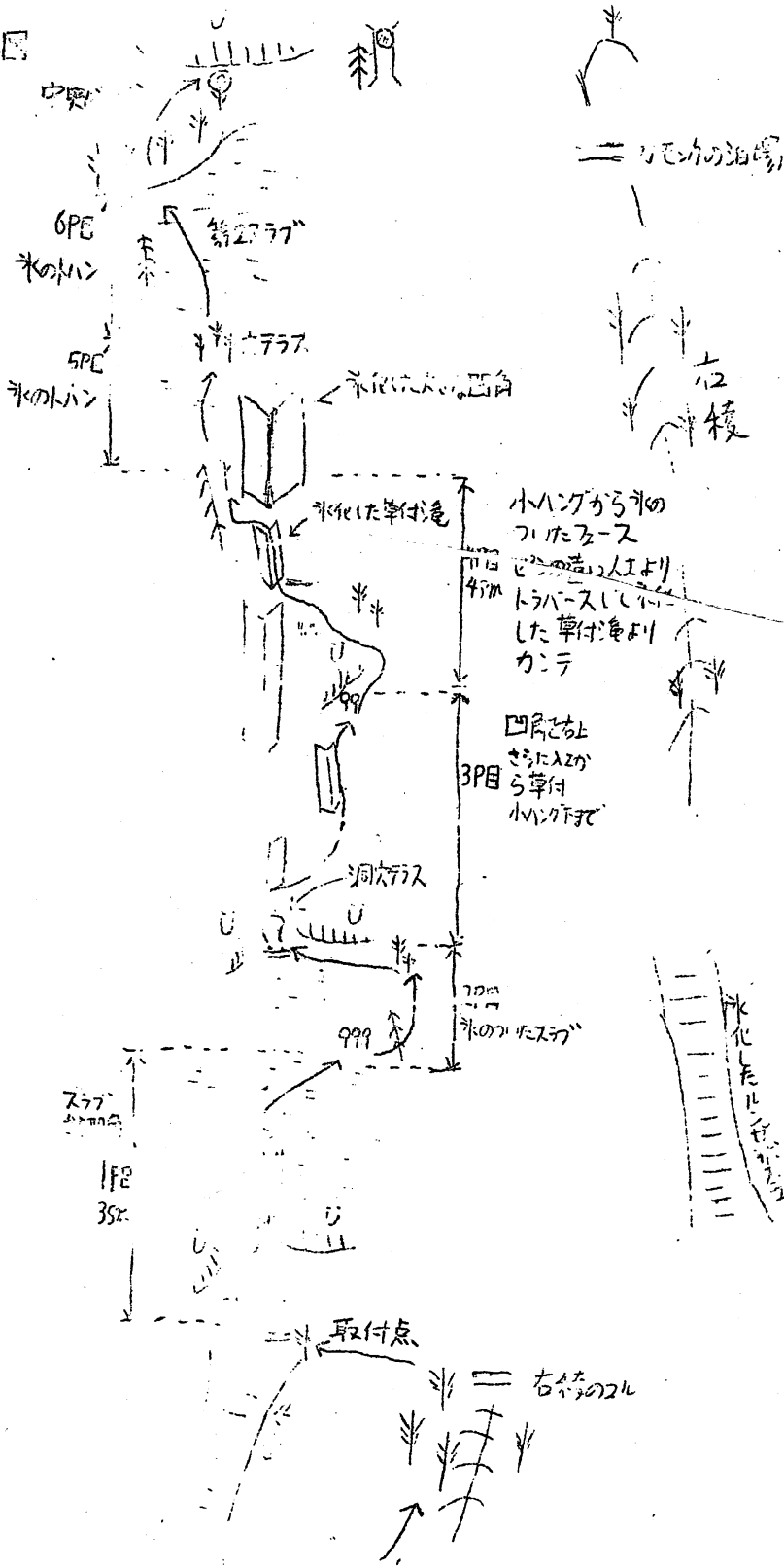
3日目 ◎→⊗_{7:00}→⊗_{13:00}→⊗→◎ BS—右稜の頭—大町の宿 _{16:30}

7P目、^{7P目}たっぷり朝食をとってから登攀開始する。中嶋—片山—山本のオーダーで中央バンドの雪壁を上部4ムニーに向って右へトラバースし、100mほど下って4ムニー内へはいり。4ロックストンのハンゲと雪壁を登り洞穴まで30m。雪が不安定で中嶋はトラバースと4ムニー内の雪壁で雪がくずれて1度ずつ落ちる。

8P目、このルートの核心部の4ムニーである。ひき続いて中嶋トップで登る。秋にこのピッチを登っている中嶋としては、このピッチをトップで登らせてもらって、うれしくて涙が出そうだ。人工で4ムニーの右壁を登って4ムニーから外へ出る。そして雪のついたバンド#を直上し、2段目の4ムニー下のブッシュにたどりつき、ブッシュをアブミで登ってバンドを苦しい体で左へトラバースし、4ムニー内の4ロックストーンにはたベルグラにステップを切、左手でハンゲした雪をかき落とし4ロックストーンの上に乗る。人工で4ムニー右壁を直上し、4ロックストーンの下で右へ出てブッシュのあるスタンスに立ちよとするが悪く、マイクロハーケンを打ち、それにアブミをかけてはいり上る。ラストはユメールで完全に空中を登ってくる。

9P目、トップ片山に替り、ザイルトラバースで4ムニー(3段目)にはいり、雪壁を直上して、20mほどで右壁にうつり、ハーケン1本打ってブッシュ帯にとびこむ。30mで右稜の頭へ出る。ザイルに雪がついてユメールが

下部1-6区



戸隠山塊PI尾根完登 3日

L 中嶋岳志 二保

戸隠山は長野からバスで1時間の近距離にあり、低いブッシュの多い山であるが、集塊岩からなるその独特の山様と、東面の大懸崖は、僕の心をひきつけずにはおかない。岩はモロいので岩登りの対象にはなりがたいが積雪期には、名リッジはキノコ雪をつらねた悪度差800mにもおよび大バリエーションルートとなる。比較的ポピュラーなハク院、本院岳ダイレクト尾根、PI尾根とのぞけば、積雪期の登攀記録は名リッジともに、5指にみたりほいで、まだプリミティブな雰囲気があり、大変魅力的である。PI尾根は、昨年も2回にわたってアタックしたのだが、どうもみじめな敗退をきし、今回は3回目のアタックであった。

1日目 長野07:02 — 宝光社 — 上楠川 9:30 — 天狗原 12:30 — 熊ノ透場 14:30

バスで宝光社まで行き、上楠川部落からスキーを付けて夏道ぞいにどんどん進むが、途中で中嶋のシールが2本ともこわれてしまい、時間をくってしまう。天狗原にスキーとマイナーピーク直登リッジ用のエッセンでデポし、アイゼンをつけて尾根にとりつく。雪がくさっていて苦労し、熊の透場下のどバークサイトについた時にはまだ上へ進めず時間だったが、今日はここまでとして上部を偵察にゆく、50mほど登ってひきがえす。

2日目 ⊗ 昨日からの雪で凍とする。

3日目 ⊗_ト → ⊗ → ⊗ BS_{6:30} — PI 11:00 — 天狗原 14:20

2日間の降雪で不安はあったが、気温がひくいたので、だいたいぶだうと出発する。去年ルートにしたルンゼは、雪が不安定なため、右の緩へ向ってラッセルし、串岩壁の左下へ出る。ここより樹木帯と雪壁との境を左へトラバースして、去年ルートにした雪壁をさけ、左の緩をルートとすることにして、アンガイレンしてスタカットで登りはじめる。

1 P目トップ(中) ルンゼとトラバース5mから樹林帯へ25m

2 P目 (中) 中嶋 不安定な雪壁25mで稜に出る。35m登リブリッシュでビレー
るP目線料が落ちたので、コンテで稜を登るとインゼル状岩稜の下へ出る
ブリッシュにそって右上し、雪壁に出てスタカットにする。

3 P目トップ(中) 不安定な雪壁30mで小さな台地状の所へ出る。

ジャンクションピークまでゆるい斜面が続いている。腰までのラッセルをしてピークまでゆきしばらく休む。ジャンクションピークは一般には無念の峰と呼ばれる小ピークで、P1がわが15m位のけんちんギャップとなっている。しかしそれは無雪期のはなしで、今はピークがそれ自体巨大なキノコ雪となり、ギャップは雪でうまっている。

4 P目トップ(中) ピークでビレーしてアップザイレンの支点をさがそうと雪でくずすが、いくら掘っても何も出ず、しがたなくキノコの先端まではって下り、そこからザイルにすが、て下降する。完全に宙ブランとなり、ふりこでギャップをうめた雪の上へ飛びうつり、安定したバクツを作って、セカンドには飛びおりてもらう。

5 P目トップ(中) 雪稜40m

6 P目トップ(中) 小ピークまで雪稜25m

7 P目トップ(中) 雪稜の下降20m ナイフリッジの先端まで

8 P目トップ(中) 蹠ノ戸渡りと呼ばれるナイフリッジで両側ともスパッと切れて高度感満点、西岳沢側に雪尻がはり出している。35m

9 P目トップ(中) ナイフリッジの終了点から岩の出た垂壁、雪のハンゲを2つこえる。25mで広い台地状ピークに出て20mのコンテ

10 P目トップ(中) 不安定な雪壁30m、落した雪が左右の壁と雪崩となってあちちかく。

はいしゃがかるくなり、腰までのラセルで内座下まで
11P日 トップ(※) 2mほどのマイナルハングをぶらこわし、P1へずり上る。
後雪上は風が強く11P目のスタート地点までもどって行動費をためる。これが
ちとP1尾根で登れたのだが下降のことを考えると気が重いの。

下降の様子

1P目 トップ(=) 登りの10P目の終了点からスタカトで台地状ピークへ

2P目 トップ(※) 台地状ピークのキノコ雪の下まで5m

太い樺木から15mのアピザイレン

3P目 トップ(※) ナイフル江の終りまで35m

丁Pの午前までコンテ

4P目 二俣トップで取付くが登れずトップをかねて細いゴシにアブミをせりし
キノコをぶらこわして右から右へ様に10mで丁Pへぬけ出す。

登りの2P目の中向地点までコンテ、樺木から20mのアピザイレン

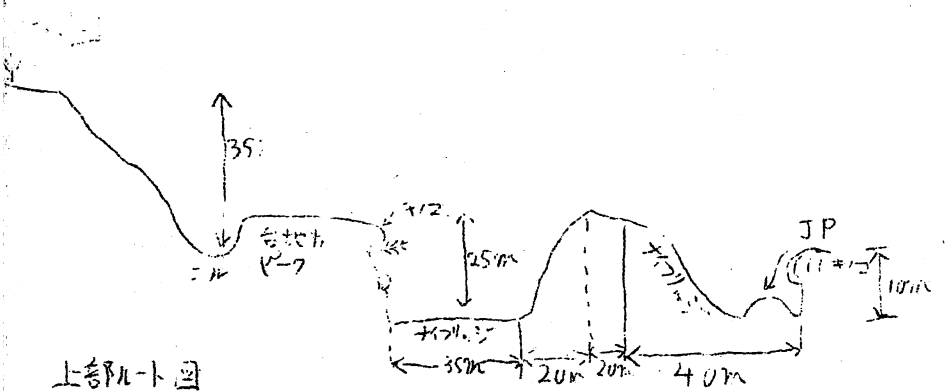
5P目 トップ(※) ルンゼを横断しておしまい。

ザイルをとりてテントにもどる。すくりに下りて天狗原へ下る。

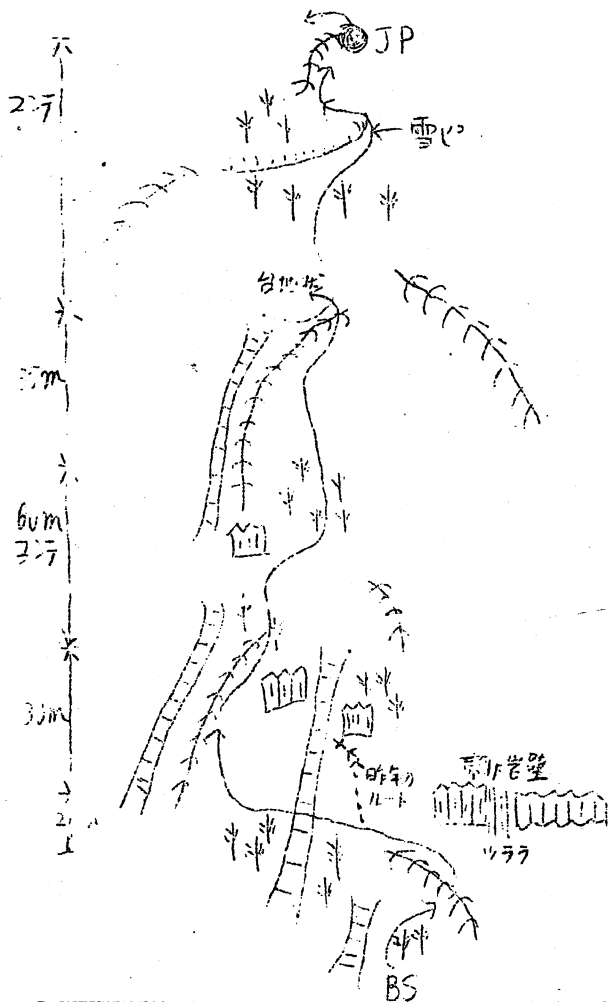
4日目 ② → ① 天狗原 — 西岳沢出立 — 宝光社 — 下山

マイナーピーク直登ルンゼへ取付こうとトラバースをはじめますが、雪が厚く
て時間をくり、ブロックが各ルンゼから落ちはじめたこともあって下山す
る。

上部ルート図



下部ルート図



◇ 扇園岩(下部雲稜上部緑) ~ 前纜 ~ 奥纜 ~ 北徳

メンバー L 山本幸(教 IV) 片山博彦(農 III)

3/11 ~ 3/14 日

当初の予定では奥纜を登る予定でいたのが扇園1時間とくりまぎその合分をなしてまた、しかし復登でもし、かなりしたトレーニングと精ん力を持って来れば冬期登攀がからし、てやみくもに恐るものではないと思ふ。又扇園には時間をたっぷり遣きたがあの再登の中で登れたことはかなりの自信となった。北徳から降りてきて扇園を見上げたとき、後等が登った時と同じ壁とは見えな程、黒さとして感じられたことと、奥纜にそれぞれの経路をもつコンカでまたこゝに満足するまであらずと思ふ。

(しかし2つの壁を登本なかなことは試みであるし、後等の不安定を思ひしよ来たことと事実である。自分もそれとトレーニングして来ると冬期登攀をしようと思ふ。

<行動記録> 3/11 ① 松本 = 天渡 - 新山次トネル

カヤミの山本が強気なリ、H体不ことを強引に朝ケスの出発予定をやめて登攀がからくり出発し、後分5-1時間ほど歩いたJ次トネルの中に向ふ。

3月12日 ② T₃(6:30) - 上高地 - 横尾(19:30)

予想より暑く、T₁は全くなし非常に暖か。Hは分のE₁のE₂とかなりの量の登攀具がザクザクは非常に重く、ラ、セルはよくさばき経度までありだてる。山本は支倉に死んでしまった。横尾から時々見える扇園は青い山とグスのそって奥向で不審になる。

3月13日 ③ 小屋(6:30) - T₂取付(10:30) - T₄(17:00)

昨日の戻来で食料が足りなくなり、T₂から出発する。昨年はしまった雪で有人たりにT₂まで行けたのが、今年も同様である。また、寒波のせいか取付

かなりの新雪があり、バタバタになりながら、セルを上げてゆく。取付の100
米程下で準備をしながら上を見ると壁は全面的に4リ雪崩におおわれてる。特
に登り予定だった大スラブは大スラブル(セリ筋のもの)と上部ブリッジ帯
からの4リ雪崩で完全におおわれて、時には向く見えなくなった。まずT4
まで行って様子を見よと山本TOPで登り始める。T4尾根は完全に氷と雪で武
装していて予想外に時間を食う。まず雪をとっけ、それからその下の氷を蒸と
してルンペンホールドをさがすので全くしんどい。そのうえ、上部はブリッ
ジ帯からの4リ雪崩で完全におおわれているのできつい。しかし時間をさかして雪氷
をとっければ、ちかんとホールド、ルンペンがでてくるので恐怖感はない。
これは壁全体、さる手で極度に難しいフリーのピッチはなかなか大様である。
ところでセカンドはJumperを補助して登るのが2回のピッチが2回なので
決して楽ではない。しかし、ここは斜め上登るのでJumperにはおき
かけは省かず、2回Topが2:30、second 1:30と合わせて4hour
をのけていた。荷上げの方法にも問題があると思うのだが、経験上、
とほしい偉業はその場その場の思いつきでやっているのだから、セルを
おこさずともかろうじて登る。2P目はソルヤで山TOPから、うをかつ
いで登る。昨年はコンスニエアスで山けり快道な雪道であったのだが、今年はクラ
ストした下がザラメ状の雪道であり、全く気を取りつかない。足場が全くなま
りないので、ブリッジとカケたりして時間をかせぐ。このピッチがな
りまじりピッチだった。

3P目、ただの雪壁だが登り、徒ら急になり、最後、は頭を後打ら、セル
となる。サイルケリは山にちかるともピートより場所がなりので、そのころコン
テをT4まで進め、全部おこらっセルで、(しかも)ニシゲヒレイガとせなり
ので雪崩はおびえながらのピッチだった。T4につくと雪やぶ、50と5100をす
てあり不在意ながらここでピッチする。よこしを木をたけのテラスをほり、
しかりしたセルフビレイをして、安全を確保する。あまりよいBDとはい
えない所であった。

3月14日 ⊗ T4 - 大テラス

朝あきると又雪がある。凍結し、セヤススラブル、セヤススラブルで雪のような
4分雪崩が起きる可能性がある。氷化した扇状地には他バーレーはあらず、自分達た
けの氷がつけば木のほうへ倒れる。また不安でもある。氷化のほげ、大テ
ラスルートはあ、さしやめて雪積ルートに取付く。細く4Pに分けて大テラスま
て行く。扇状地の中へ入り、氷と氷が雪と氷がへたりに付いている
ので Top はものまごり切れる。人通りたのは扇状地の50程のル
ートで完全に氷化しており、ダブル、スラで登ることが出来た。今日は扇状
地についたときは夕方となり、大テラスに到着。雪はと作ることも出来ず
は依然にもあることかできた。

3月15日 ② → ① 大テラス - 総終了点

雪積ルート上程の凍結し、雪崩が、雪崩のなが、まのうまでのことと
雪崩と相当恐ろしいので、計画はなかつたが、扇状地に行くこと
にする。どのルートをとるか、たのなが、また登ることがないルートをとる。
そく合を出す。1P目はスラブルしてから上へ登り、上はハンクのか
せとあんと雪がいていて、ここより小テラスで止れる。このル
ートはほとんど全部がハンクなので、クモをたんに上げてくると
2人とも空身で登り、2つづつ、クモを上げたのが、2人で40kg以上あり
Jumperを利用しての荷上げもままならぬ。1回の荷上げで20m上げ子のガセ
リゼンである。又、ハンクの下に入りこむのがあがて、モウリに腕力
を消費する。これにより、次のピッチからはセカンドが、クモ一つして
登ることが出来る。2P目からは完全なハンクで、アイゼンがなくても、2人と
も自分で登る。スラブルを、ぬけそ、なボルトに気を使わずに登り、
1つかり大テラスで止れる。3P目、下から登るとた、したハンクには見え
ないが、実際登ってみると相当な難である。ハンク帯は奥と同じなので
簡単に登るが、ハンクを越えたところからまた雪と氷が来てきた。
最初アイゼンがなくて登るとして、下Pの片山を、ついに登れる。ボルトに

をとり出さず。1P目昨日固定していたザイルをたて登り敗退したクラックのあるスラブの下に出る。昨日は真暗で希望的に見えたこのスラブはよく見るときつめなところが多い。ザイルがうらまわしなくてもクラックなど登らなくとも右から左めは木をつたて登ることかできる。はなから頭に来たが、もう来たことである。木をつかんで上の雪壁に出。2Pで終了点に出る。ここからは足が滑りやすいが、気がぬけたせいかバテバテである。しかし、思ふより、セムはない。特に肩の頭をすましてからは完全にクラストしていて全く、セムはない。肩の耳をすまして肩根の屈曲点、雪洞をほる。夜は相当に冷え、あまりおそくなかった。

3月17日 ○ B.N - 前穂

今日は良い天気である。北尾根は完全にクラストしていて1-ザイルで2人とはず。昨日までの話からそのようなスピードである。4時で右岩稜をみなが、雪壁、ツアケを乗り越えるので、さやめて、急登を登りかぶり、と自分を急降下させた先を進む。急登の登りは2Pほどスタカトで行く。寒いかとは真暗で気分的にすごく楽しい。重荷で苦しかったところもあったが、快適な急登だった。早くも2時に前穂につく。先に、行、てよか、たのだがバテバテか、てきいので、ここは泊ることと、時間をかけていかりとバテをほった。

3月18日 ○→①→② B.N - 北穂 - 横尾

今日は快適な急登である。北穂では人がい、ほら、その平なかに会入子ばかりかど期待していたが、人、子、人、おらずが、かりする。涸沢から北穂までは完全に氷化していて寒い。ツアケを自力にきかして1-ザイルで2人、途中、初めて人、会、い、な、人、と、な、く、ら、れ、く、な、る。しかし、この大雪山、急降下、し、き、バ、テ、と、き、ま、く、さ、ま、り、で、ス、ー、パ、ー、ク、ラ、イ、マ、ー、で、あ、る、か、の、ま、じ、に、誤、解、す、る、物、で、は、す、か、く、て、あ、い、ま、ま、そ、こ、そ、こ、に、横、を、通、り、ぬ、け

